

海外の国際学会でのLAの活躍



【写真1】

今年3月14日から16日まで、台湾台北市南港地区にある Academia Sinica (国立の総合研究施設) で、TELDAP 2013が開催されました。本学LAの政策創造学部当時2年生の中村薫平さん、経済学部当時3年生の丸山遥さん、文学部当時1年生の鈴木香帆さんの3名が国際学会運営スタッフとしてインターンシップを体験してきました。この学会は、世界各国の大学から250人ぐらゐの参加者のある学会で、今回は10年目の開催でした。【写真1】は学会HPよりパナーと開会式の様子です。



【写真2】座長補佐業務中のLA

AV機器の操作確認を行い、学会開催日からは受付カウンターでの参加登録業務、学会コンシェルジュ業務、セッション座長の補佐業務等を経験してきました。【写真2】は座長補佐業

務中のLAたちです。学会運営スタッフ業務に加え、中村薫平さんが本学のLAの活動とスタディスキルゼミ授業でのアクティブラーニングの涵養についてポスター発表も行いました。【写真3】閉会式では、3名のLAは学会でのグローバルな活動に貢献を讃え、Simon C. Lin学会委員長より感謝状をいただきました。【写真4】本学のLAたちは、これまでの留学経験を通して培ったグ

Learning Assistant

LA活動報告



【写真3】ポスターセッションで中村薫平さんが発表



【写真4】

ローバル・コミュニケーション能力を、国際メンバーにより構成された学会運営スタッフチームの中で十二分に発揮してくれました。

本学の長期ビジョン：「グローバル社会で「考動」する関大人を育成」に関連する活動の一環の実証例（アーティファクト）としてご報告いたします。

注【写真1～4】はTELDAP公式ホームページ (<http://collab.teldap.tw>) より許可を得て掲載しています。

(教育推進部 山本敏幸)

From CTL事務局

こちらへお世話になって約2ヵ月がたちました。当初、聞きなれないカタカナや英語のオンパレードで、最初何のことがわからない状態でしたが、CTLの先生や職員の方々といろいろお話を聞いて、状況を知ることができました。このCTLニュースレターは、記事としてはわかりやすく解説されており、バックナンバーを何冊か読んでみて、ある程度内容を理解することができましたが、教育現場で実践されている様子を見て、より深く

理解することができたように思います。コラボレーションコモンズやライティングラボなどの取り組みや活動を見ていると、驚きとともに新鮮な気持ちにさせられます。先日も国立台湾大学の先生方が本学を訪問され、CTLの現場や施設をご覧になり、熱心に質問をされている様子を見て誇らしく思いました。

教育といえば、各学部のなかで完結するものであると認識されがちですが、CTLは大学全体の教育に関わる活動であり、今まさに大学に求められている最

新の教育活動であることを発見しました。海外の大学と日本の大学との比較、グローバル人材を求める企業の姿勢等の報道で大学教育の中身がきびしく問われていますが、いざ改革を進めるとなると困難さが伴います。そんななかで、CTLの活動が心の支えとなり、仕事をしていくうえで力強い励みとなっています。これからも学生や先生方にとって有益で積極的な活動を続けていただき、本学にとって「希望の星」のような存在であってほしいと願う次第です。(廣)